

世かけて
びました

パラオ島を訪ねて

会員 牛木久雄

4月の天皇后パラオ慰霊訪問直後の5日間、国際善隣協会は総勢9名で同島を訪問した。

航空路は往路復路とも、深夜早朝の発着で負担ではあったが、幸い好天に恵まれ、パラオ諸島の北部から南部まで視察できた。

旅の概要は……
4月18日深夜、成田発。19日



夜明け前パラオ着、休憩後、サンゴ礁と緑の島々が連続するロックアイランドを経て海路ペリリュー島訪問、20日、バベルバダウ本島を周遊、日本統治時代の市街や施設を視察、パラオ国会議事堂訪問、協会となじみの深い田尻和宏大使との夕食会、21日、日本大使館表敬訪問、大使からパラオ内外の国際情勢、社会問題、そして両陛下をおむかえしての所感など、お話は尽きなかった。のちコロール市街散策、国立博物館、国際サンゴ礁センター見学、22日早朝パラオ発、午前中に成田着であった。パラオ諸島は、1994年10月1日に国連信託統治



パラオ島ロックアイランド

が来訪しているが、中国人が爆発的增加中で、今年の春節時には1万6000人が来訪し、今年は日本人以上の6万人台を超すと見込まれている。太平洋戦争では関東軍第14師団1

から共和国として独立し、現在人口2万人、観光、漁業が主要産業である。コロール島南部からペリリュー島北部までのラグーン千平方キロと島々が、ユネスコ世界遺産「ロックアイランド・南ラグーン」として登録されている。海と陸、島全体が豊かな自然、清冽な環境に恵まれ、観光をベースに発展をめざしている。既に、年間4万人の日本人



ペリリュー島戦跡

万人が進駐しペリリュー島で玉砕した。それは既に敗色濃き1944年9月10月のことであった。

戦前、日本の委任統治下で日本移民も含め人口が5万人を超えていたことや、それ以前の欧米の太平洋進出の前に、4万人からの島民が生活していたことを考えると、パラオは未だ往時の繁栄を回復していない。因みに、島民の40パーセントは日本人との血縁関係を持つといわれ、大統領をはじめ指導的立場の人々に



パラオ共和国国会議事堂